

令和6年度 経営企画委員会と富山県立大学「POLYGON」所属学生との 意見交換会報告

経営企画委員会では、「DX推進に向けた大学生の活動と今後の展望」をテーマに、以下のとおり、富山県立大学DX教育研究センター学生団体・POLYGON(ポリゴン)所属の学生さんの生の声をお聴きする意見交換会を開催しました。



1 開催日

令和7年1月20日(月) 午前10時30分～11時

2 場所

富山県立大学DX教育研究センター 2階オープンスペース

3 参加者

<県議会>

経営企画委員長	川上 浩
// 副委員長	大門 良輔
// 委員	佐藤 則寿
// 委員	横田 誠二
// 委員	立村 好司
// 委員	庄司 昌弘
// 委員	瘡師富士夫
// 委員	筱岡 貞郎
地元議員	瀧田 孝吉
//	永森 直人

<関係者> ※敬称を省略しています

学生団体 **POLYGON (ポリゴン)**
所属学生
学部4年 齊藤 光汰
学部3年 五社 悠悟
学部3年 水野 玲香

DX教育研究センター
所長 唐山 英明



POLYGON

2022(令和4)年3月、富山県立大学DX教育研究センターの完成を機に、高度なデジタル技術を持つ人材を育成するために組織された学生団体。獲得したデジタル技術を活かして社会実装に取り組んでおり、富山県庁のDX化推進や企業との連携も行っている。

4 テーマ

DX推進に向けた大学生の活動と今後の展望

5 意見交換の概要

(1) POLYGONの活動紹介（令和6年中の主な活動）

- i 大学祭で、ARやセンサー技術を用いたフォトスポット、クイズラリーを作成
- ii CAVE※₁によるVRゲームを富山情報ビジネス専門学校と共同制作
- iii アイディアソン※₂で、県内企業と学生がチームを組んで新規ビジネスを考案
- iv 県主催のハッカソン※₃に2チーム出場し、マイナンバーカードを活用するWebアプリを作成。準グランプリ、技術賞を受賞。



- ※₁ **CAVE (ケイヴ)** … 正面・側面・床面の3面をスクリーンで囲んだVR表示システム。視覚全体をVR映像に囲まれることにより、高い没入感を得ることができる。建設業や製造業における設計の検証、また防災、気象シミュレーション等の用途で活用されている。
- ※₂ **アイディアソン** … アイディア (Idea) とマラソン (Marathon) を掛け合わせた造語。特定のテーマについてグループ単位でアイディアを出し合い、競うイベント。
- ※₃ **ハッカソン** … ハック (Hack) とマラソン (Marathon) を掛け合わせた造語。ITエンジニアやデザイナーなどがチームを作り、特定のテーマに対してアイディアを出し合ってアプリケーションやサービスを開発し、競うイベント。

(2) 自己紹介①・富山県立大学を進学先として選んだ理由

- ・ 県内出身。研究室のパンフレットを見て、観光地を巡る人流データを使ってアプリを開発するプロジェクトの紹介がされており、実際のデータを使った研究ができるというところに関心を持った。
- ・ 県内出身。県内で進学しようと考えたときに、富山県立大学にちょうどDXセンターが出来るということで、高度な情報技術をこのDXセンターで学ぶことができるのではと期待した。
- ・ 県外出身。一人暮らしがしたかったこと、また富山県立大学は情報にとっても力を入れていると感じたことから、選んだ。

(3) 自己紹介②・現在学んでいることと、今後への活かし方

- ・ 卒論作成前は、YouTube、ツイッターなどのWebアプリケーションを作る技術を学んでいた。卒論作成にあたっては、最適化問題を学び、それを使いやすくするWebアプリケーションの実装に取り組んでいる。後輩にも自分の学んだアプリケーション技術などを還元したい。
- ・ IoTやセンサー技術について学んでいる。講義でIoTに興味を持った。センサー技術はIoTを駆使するうえで必要なもの。今後、IoTやセンサーについての知識や技術を身に付けて、就職した際には企業の役に立ちたい。
- ・ 現在は、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験など資格取得に向けた勉強に取り組んでいる。今は知識を蓄えていこうと思っており、情報のことがよくわからないという方にしっかり答えてあげられるようになることを目標にしている。

(4) 企業との連携内容

(委員質問) アイディアソンについて、企業の方と連携してアイデアを考案されたとのことだが、具体的にどんな提案をされているのか。

- ・ スポーツ用品製造販売の企業と連携し、衣服製造工程で発生する廃材を活用して自分だけのパッチワークが作れる新規ビジネスを提案した。当該企業が注力するSDGsに貢献できるアイデアとなった。
- ・ IT企業から「IoT講座を開催しているが、もともとIoTに興味のある企業しか参加しない」という課題があると伺い、最初からIoTをテーマにするのではなく、「企業をよりよくする」ことを目的に掲げ、そこでIoTの観点から改善策を考えるような講義内容を提案した。

(委員質問) 社会課題、企業課題と、皆さんの持っている知識・技術とどう組み合わせていくかが一番の大きなポイントだが、社会のこと、例えば企業の製造工程が実際どうなっているかなどについても少し踏み込んで学んでからでないと、学習したことを生かすのはなかなか難しいと思う。その点はどんな工夫をされているのか。

- ・ アイディアソンでは期間中に企業見学をして、実際に工場の中に入って、どのような工程で作られているのか、手作業で行われているところも含めて現場を見て、どこに課題がありそうかということを考えた。
特に1、2年生のうちには企業の実際はわからないので、他の活動の中でも、皆で企業見学に行ったりしている。

(委員意見) 活動を通して、企業側でも、皆さんの側でも、お互いに理解が進み、つながっていくということだと思う。

(委員質問) 県庁のDX推進サポーターとして勤務されている方もいらっしゃるとのことだが、企業でも同様の雇用契約を結んでいることはあるのか。

- ・ あまり多くはないが、POLYGON自体が企業からアルバイトを引き受けることもある。

(委員質問) 県内企業をいろいろ見ておられるようだが、県内企業へ就職したいという気持ちはお持ちなのか。

- ・ 富山県が好きなので、県内企業に就職しようと思っている。

(5) POLYGONの活動状況と今後の展開

(委員質問) 今、POLYGONには何名所属されているのか。

- ・ 連絡用アプリには約100名の登録がある。学年が進むにつれて研究活動が忙しくなってくるため、下の学年から技術面等の依頼があれば動くというメンバーもいる。実働の中心となる3年生以下のメンバーは、40~50人。外部と擦り合わせながら進めるプロジェクトは、3、4年生がリーダーとなって進めている。

(委員質問) POLYGONの活動は自主的なもので、大学教員はあまり関わらないとの説明があったが、企業と連携する活動は、どのようにして企業とつながりを持つのか。

- ・ 学生が企業の窓口に声掛けして直接やりとりしているケースもあれば、一部では、教員が企業から相談を受けた際にPOLYGONに紹介するケースもある。教員が紹介した場合も、その後の企業との連絡は学生が直接行う。LINE等のSNSも活用して連絡を取っている。

(委員質問) POLYGONのメンバーで起業された方はいらっしゃるか。

- ・ 2名が、在学中に起業している。企業の消費電力の見える化、IoT関連サービスを事業内容としている。

(地元議員意見・質問) 地元のまちづくり協議会で、POLYGONの皆さんにプログラミング教室を実施していただいたことがある。企業との連携はもちろん、地域でも活動いただきたいと思っている。

これからやってみたいことがあればお聞かせいただきたい。

- ・ 現在1、2年生がプロジェクトに参加する機会が減っているので、何か経験を積めるような活動をさせてあげたいとは考えている。積極的に活動していきたい。

(6) 学生生活について

(委員質問) 県大周辺エリアに住んでみて、もっとこうだったらいいと思われることがあったら、お聞きしたい。

- ・ 交通手段が、徒歩、「のるーと」(射水市のオンデマンドバス。令和5年10月から運航開始)、電車(あいの風とやま鉄道)である。「のるーと」は大変便利なのだが、電車はもっと本数があるとよいと思う。

(委員質問) 人流データの活用に興味を持って入学されたとのことがあったが、現在は人流データについて研究等をされているか。

- ・ 人流データを扱っていた研究室に入ったが、当該プロジェクトはほぼ終了しており、最初に興味を持ったことに携わることはできていないが、その研究室はやはり面白く、入ることができてよかったと思っている。衛星から地表面の画像を収集する技術を用いて災害の検出を試みるプロジェクトがあり、そこに携わることができている。

県立大学はいろいろと魅力的な機会がもらえるところであり、面白いものは、自分が見えている外側にもいっぱいある。そういうところを見ることができると、すごく楽しい。

—以上—

